

## 性の指導について悩んだことはありませんか？

“人の体に触る”“人との距離が近い”“性器いじりをする”など、地域支援センターには、障害のある児童生徒の「気になる行動をどうしたらよいか」という相談が、小中学校から入ります。特に知的発達や認知機能に課題のある子どもへの指導について、何をどのようにどこまで伝えたら良いのか、と悩まれています。

悩んでいるのは支援者だけでなく子どもも同じです。思春期の子どもは、体や心が大きく変化するとともに、ホルモンの影響で「モヤモヤ」「イライラ」することがあり、自分ではうまく消化できず人や物に当たることがあります。どの子ども性の正しい知識を学び自分の体や心の変化を肯定的に受容できるようにすること、自分なりの対処法を身に付けることで、思春期を少し乗り越えやすくなると思います。また、性の正しい知識をもつことは、性犯罪の被害者や加害者になることを防ぐ効果があります。発達段階に合わせて必要な性教育を必要な時期に確実に行うことは、子どもたちの将来を考えても、とても重要なことなのです。性教育の指導項目はいくつかありますが、特別支援教育における性教育では、次の5つを大切に考えています。

### ①性教育の観点を持って日常生活の指導をする

「排泄」や「体の清潔」に関する内容は、日常生活の中で指導するチャンスが多々あります。人前でも平気で性器を出して排泄をすとか、きれいに拭き取りをせず済ますとか、将来子どもが困るであろう行動は、一度の授業ではなかなか改善されませんが、毎日根気よく伝えることで、確実に身に付いていきます。

### ②行動のルールとマナーについて、具体的に伝える

社会で定められているルール、法律的にしていけないことは「だめ」とはっきり伝えます。

マナーについては、どんな場面ではNGでどんな場面ではOKなのかを、その子の年齢や生活環境、生活スタイルに合わせて伝えます。NGの行動を伝えるときは、その行動によって相手や周囲の人がどのように感じるかを伝えることで、理由を理解できるようにします。

### ③教師が手本となる行動をする

人との距離感についての感じ方は人それぞれです。適度な距離を保って関わることは共通で伝えるべきですが、自分が「嫌だ」と感じた時にどう伝えたらいいのか、断り方や思いの伝え方を、教師が手本となることが大切です。「少し離れて。」「触らないで言葉で言って。」などの具体的な言葉もそうですし、子どもの手を取って支援をする際などに「ちょっと手を支えるよ。」と言葉をかけて子どもの意思を確認してから触れるというように、“相手の気持ちを大切にする姿”を見せることも、指導の一環となります。

### ④共感的に伝える

ホルモンの働きによって心が成長してくると、自分の体や他者の体に興味が出てきたり、人を好きになる気持ちが芽生えたりします。それは自然なこと、誰にでもあることです。子どもの気になる行動を指導する際は、まずは子どもの気持ちを受容し、大人もみんなそのような時期を経て成長してきたことを伝えます。

### ⑤授業をする際は焦点を絞る

性教育の授業を行う際は、対象の子どもの実態や学級の実態に合わせて、焦点を絞って行うことが大切です。内容を欲張ると伝えたいことがばやけてしまう可能性があります。生活の中で見られる気になる行動を例に挙げ、客観的にその行動について考える場を設けることで、自分の行動を見直したり自分ごととして考えたりすることができます。ただし、例を挙げるときは個人が特定できないような配慮が必要です。

☆性の指導についての書籍や講演内容を、次頁以降にまとめてみました。よろしければご参照ください。

## 包括的セクシュアリティ教育

### 包括的性教育

→性教育の一形態で従来の性や生殖にとどまらず、ジェンダー平等や性の多様性、自己決定能力などを含む人権尊重を基本とした性教育。

性行為を禁止・制限するのではなく、「人間は性を楽しむ権利をもっている」ことを前提に、安心・安全で豊かで楽しい性行動ができるようになることを目指して行われるさまざまな教育のこと。

「自分のからだは自分だけの大切なもの」という感覚を育むことから始める！

#### ① 性器を含めたからだの学習

名称やはたらきなどを知り、自分のからだのことを自分で決められる力を育む。

**\*注：性器が存在しないように扱うのは厳禁！**

例：「女の子にはおちんちんがありません」という言い回しをすると、女の子には性器がないという認識をさせてしまう。「女の子にはバルバがあります」と、女性にも性器があることを伝える。

#### ② 「いのちのはじまり」の学習

この学習を通らないと性器などが「特別に大事」なので特別な場合を除いて「隠したい」「触らせたくない」という自己決定につながらない。

#### ③ 「ふれあい」の欲求を満たす方法の学習

##### 〈マスターベーション〉

マスターベーションはからだに害はありません。不必要なことでもありません。禁止する必要はないことで、人に見られない場所ですることや清潔な手ですることを伝えることが大事。

### 「性器いじり」改め「性器タッチ」のとらえ方

- ・「触っちゃいけません」「汚いでしょ！」という言葉は「からだの権利」の侵害であると同時に、深刻なトラウマとなり、成人期まで引きずることになるケースが多い。
- ・マスターベーションがきちんとできるようになることは性的自立の第一歩。そのためにも、「きちんとさわれるようになること」が性教育の役割。

**\*性器タッチの背景にありがちなのは、痒み・不安・退屈の3つ！**

#### 〈セクシュアリティの発達と「ふれあい」〉

★セクシュアリティが充分に発達するためには、触れ合うことへの欲求、親密さ、情緒的表現、喜び、愛など、人間にとって基本的なニーズが満たされる必要がある。

★人間が生涯を通じて、どのように身体的接触（キス、ふれあい、性的接触）から喜びを感じるかを知る。

「距離感を教える」ではなく「同意に基づいたお互いに心地よいふれあいを学ぶ」に！

- ・「腕一本分離れなさい」「1m以上離れなさい」などの機械的距離感指導は誤学習をさせるだけでなく、セクシュアリティの発達を阻害する！
- ・ASD児の遅れてくる愛着形成期への支援も必須。  
親子でスキンシップをとって、愛着がきちんとできあがらないと、子どもが親の期待に沿いたいという気持ちにならない。親の気持ちに沿いたいという想いがあれば、親や大人の助言もきこうとするし、踏ん張りもきく！

実践例：フォークダンスやサイコロゲームなど。意図的に取り入れて学ぶ機会をつくる。

### 【サイコロゲーム】

- ①「あくしゅをする」「ハイタッチをする」「頭をなでなでする」「ハグをする」などを、サイコロの目にする。
  - ②ペアでサイコロを転がす。
  - ③実際にふれあいをする前に、「〇〇してもいいですか?」「いいですよ。」といったやり取りを入れる。⇒同意の学習になる。
- ※「いやな時はいやだといってよい。」「〇〇はいやだけど、△△ならいいよ。」というコミュニケーションの取り方を学べる！



抑制的性教育（ダメダメ教育）はもうやめよう！

性について「困る」ことがあるのは、当たり前。子どもたちに絶対伝えたいのは、「困ったときは、信頼できる大人に相談しよう！」というメッセージ。

性について、ごまかしたり、隠したりするおとな、禁止・制限するおとなは、相談対象からは除外される！

### 性の問題行動

- ① 行動の背景を確認する。
- ② 丁寧にからだの学習を積み上げる。

＊性的「問題」行動は、その行動が問題なのではなく、性教育を保障していない「社会」の「問題」で、「性教育要求行動」と受け止めることが大事！

【参考図書】 日本福祉大学 伊藤修毅 「発達が気になる子の性の話」

## 性に関する指導

問題となる性行動とは・・・

- ・自分を傷つけたり、危険にさらしたりするような性行動
- ・相手を傷つけ、自分にも不利益となる性行動
- ・相手や周囲を困らせるだけでなく、本人にとっても、危険を高めたり嫌われたり処罰を受けたりする性行動

### 問題となる性行動の背景

- ☐ 満たされない気持ちや怒り
- ☐ 不十分なコミュニケーションスキル
- ☐ 相手の気持ちを理解することの難しさ

- ☐ 自己理解や他者理解、コミュニケーションスキルや問題解決能力といった対人関係のスキルの獲得
- ☐ 社会的ルールや境界線の理解

### 《性に関する指導内容》

- ① 生活習慣、清潔や身だしなみ、感情  
例：歯磨き 洗顔 入浴 洗濯など
- ② 感情の理解と表現、コミュニケーションスキル  
例：鏡で表情をつくる 気持ちについての学習など
- ③ 境界線（バウンダリー）・性行動のルール  
例：境界線の認識の程度の把握 境界線を守るためのコミュニケーションスキルを身に付ける  
性行動のルールの学習など
- ④ 自己開示、思考の誤り  
例：物事の善悪や社会のルール 自分の思考のクセや思考の誤りについての理解を図る
- ⑤ 性情報、性の正しい知識  
例：本人が視聴したものの聞き取り。間違っただけの情報。性に関する基礎知識の学習。

### 《校内体制づくり》

学年会、職員会議で理解を求め、了解を得る

- ・日々の学校生活の中には、**認められ、褒められるといった経験**をする場がたくさんある！  
全職員で、その子のできているところに目を向け、認める声かけをすることでその子の自己肯定感を高めることが大事！長いスパンでその子の成長を見ていきましょう！
- ・友人や教員と日々の様々な出来事や思った事や感じたことを話すことで、受け入れられる、感情の共有体験をたくさん積むことができる。

## 《保護者との連携》

- ・保護者と連携するにあたって
  - ⇒家庭での様子や保護者の苦勞・悩みを傾聴
  - ⇒家庭でのモニタリング
- ・指導内容や生徒の様子を適宜保護者に伝える
  - ⇒生徒の変化を報告、保護者の関わりを認める
  - ⇒家庭でしてほしいことを具体的に依頼する
- ・その他
  - ⇒余暇の過ごし方の工夫（関係機関とも調整）

### ＊性行動のルール（いい時とダメな時を確かめる）

例：「プライベートパーツを人に見せてもいい時とダメな時」

○ いい時

- ・手当や治療など、健康のためにケアを受ける時
- ・親や医者など、相手がケアの提供者である時

× ダメな時

- ・知らない人に「見せて」とお願いされた時

### ＊子どものニーズを満たす

イライラや不安を解消して、落ち着こうとするのは自然なこと

【方法】友達と話す、好きなことに熱中する

- ・本音で話せる友達がいない…
- ・得意なことがない…
- ・不快な気分は爆発させるか別の刺激で紛らわすしかない

⇒ いやな気分をかかえていられる力をつける指導

## 《ニーズを満たすための支援目標》

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| □快感            | ⇒生活の中での楽しみ・親密さ・充足感    |
| □優越感（自尊心）      | ⇒日常の成功体験・自信をつける       |
| □所属感・アイデンティティー | ⇒居場所・個性が尊重される         |
| □気をまぎらわす       | ⇒問題を解消する・解決法を増やす      |
| □さみしさ          | ⇒人間関係・さみしさをかかえる力      |
| □関係性の維持        | ⇒コミュニケーションスキル・信頼関係の体験 |
| □嫌われたくない       | ⇒自信をつける・DV関係の学習       |
| □強さ（パワー）       | ⇒自己肯定感・弱さの受容・頼る・ケア    |

## 《安心・安全な環境づくり》

□健全な境界線が尊重され、規範が示されている。

- ・家庭や学校で、境界線が守られ、全体でルールが共有されている。

境界線（バウンダリー）とは…  
自分と他の人を、または自分のものと他人のものを分ける線。  
人と人との物理的な距離や心理的な境界（許可なく他人の個人的なことを話さないなど）、社会のルール。

□保護者（親・教員）による指導と見守り（モニタリング）

- ・子どもの様子を見守り、気になった時はすぐ確認する。

□被害やトラウマからの保護

- ・安心、安全な環境をつくる。ポルノの制限。話をよく聞く。

□気持ちをオープンに伝えられる大人との信頼関係

- ・子どもが気持ちを話せるような関係づくり

□適応的な対処スキル

- ・「ダメ」ではなく、落ち着く方法や解決法を一緒に教えて練習する。

### 《失敗から学ぶ！安全に失敗する体験を》

★禁止ばかりだと、隠れてやる

しかも、困ったときに大人に相談できない

★家庭・学校で目標とルールを話し合う

★「なにかあったら話してね」と伝え、話をよく聴く

★問題をうちあげられたら、まずほめる

★スモールステップで、少しずつ練習していく

【参考】 大阪府立刀根山支援学校 舟木雄太郎先生 実践